

守山企業景況調査報告書

(第 66 回)

令和 8 年 1 月～令和 8 年 3 月期 実 績

令和 8 年 4 月～令和 8 年 6 月期 見通し

守山企業景況調査について

(令和8年1月～令和8年3月期)

1. 調査方法

守山商工会議所会員企業 70 社に対し調査票を配布し、回答を依頼した。記入済み調査票は商工会議所へ持参、郵送、Fax、クラウドシステム等により回収した。

2. 調査企業

産業別	調査対象企業数	有効回答企業数	回収率
小売業	18	14	77.8%
製造業	14	13	92.2%
建設業	12	12	100%
サービス業	20	18	90.0%
卸売業	6	5	83.3%
合計	70	62	88.6%

3. 調査期間

調査期間は、実績を令和8年1月～令和8年3月、見通しを令和8年4月～令和8年6月とし、調査時点は令和8年4月15日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指標としてDI指数を採用した。DI指数とはDIffusion Index（景気動向指数）の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差引いた数値である。

「業況」、「売上」、「採算（経常利益）」、「従業員」のDI指数は前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金の借入れ難易度」のDI指数は3カ月前との比較である。

「取引の問い合わせ」、「採算（経常利益）の水準」のDI指数は過去との比較ではなく、調査時点での水準を聞いたものである。

調査の概要

令和8年1月～令和8年3月期の守山企業景況調査の結果は、以下の通りである。調査結果はDI指数（景気動向指数）を用いて示している。

DIは、「増加」「好転」等の企業割合から「減少」「悪化」等の企業割合を差引いた数値である。そのため、DIが±0の状態であれば、「増加」「好転」等の企業割合と「減少」「悪化」等の企業割合が同じであることを示し、プラスの数値であれば「増加」「好転」等の企業割合が「減少」「悪化」等の企業割合よりも多いことを示す。逆にDIがマイナスの数値であれば、「増加」「好転」等の企業割合が「減少」「悪化」等の企業割合よりも少ないことになる。

また、グラフは右肩上がりになれば良い方向に向っていると判断でき、右肩下がりになれば良くない方向に進んでいると考えられる。

令和8年1月～3月期の調査結果では、売上高、採算が上昇し、業況、資金繰りの数値が低下した。

<業況>

業況DIは▲21.7で前回調査の▲13.1から8.6ポイント低下した。業種別では、小売業▲46.2（前回調査比▲39.0）、製造業7.7（前回調査比+30.8）、建設業▲25.0（前回調査比+16.7）、サービス業▲23.5（前回調査比▲11.0）、卸売業▲20.0（前回調査比▲70.0）と製造業、建設業は上昇した。4月～6月期見通しは全体で▲22.0である。

<売上高>

売上高DIは12.9で前回調査の4.9から8.0ポイント上昇した。業種別では、小売業▲14.3（前回調査比▲28.6）、製造業▲15.4（前回調査比▲15.4）、建設業25.0（前回調査比+52.3）、サービス業44.4（前回調査比+26.8）、卸売業20.0（前回調査比+3.3）であり、建設業、サービス業、卸売業で上昇した。4月～6月期見通しは全体で3.2である。

<採算（経常利益）>

採算（経常利益）DIは▲8.5で前回調査の▲19.7から11.2ポイント上昇した。業種別では、小売業▲23.1（前回調査比+5.5）、製造業▲15.4（前回調査比+15.4）、建設業▲18.2（前回調査比+6.8）、サービス業11.8（前回調査比+24.3）、卸売業0.0（前回調査比▲16.7）で卸売業以外は上昇した。4月～6月期見通しは全体で▲18.6である。

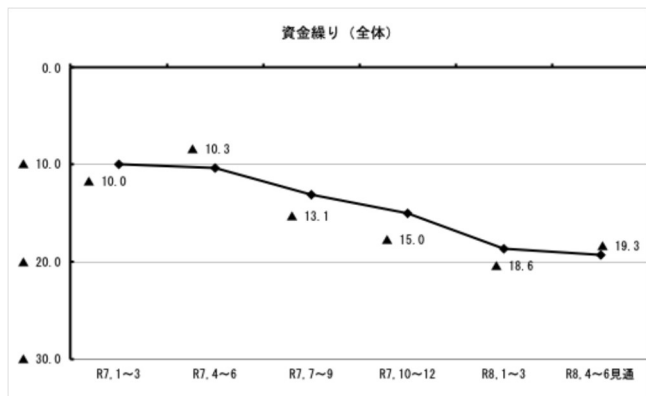
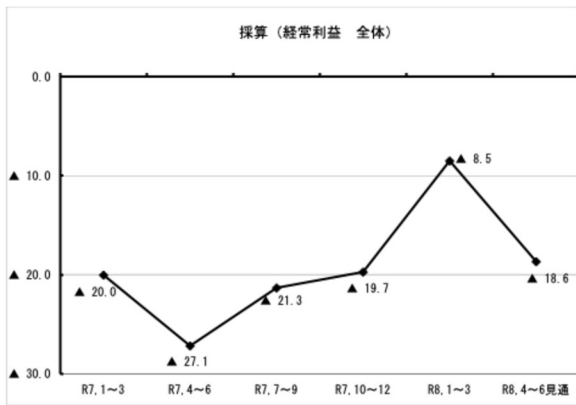
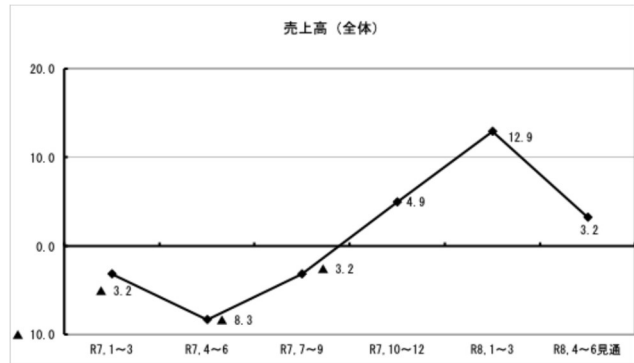
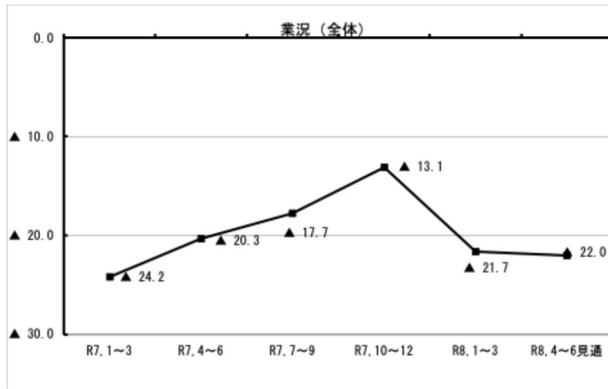
<資金繰り>

資金繰りDIは▲18.6で前回調査の▲15.0から3.6ポイント低下した。業種別では小売業▲33.3（前回調査比▲26.2）、製造業0.0（前回調査比+23.1）、建設業▲25.0（前回調査比+29.5）、サービス業▲17.6（前回調査比▲17.6）、卸売▲20.0（前回調査比▲36.7）で製造業、建設業が上昇した。4月～6月期見通しは全体で▲19.3である。

その他の意見

- ・ 原材料費の高騰で厳しくなっている。（小売業）
- ・ 石油のことにに関して、商品が入ってこない（小売業）
- ・ 値上げの中、プレミアム商品券の利用に期待をしている。（小売業）
- ・ 商品及び工事部材の仕入れ値の上昇が大きい。価格転嫁は都度しているが追いつかない。（小売業）

- ・イラン戦争により原材料の入手難、値上りの影響大（製造業）
- ・原料入荷（石油系）がタイトになり仕入価格の上昇が大きく影響。（製造業）
- ・原油価格、調達が不安定になり、製造各現場に影響が出ている。（製造業）
- ・エネルギー価格が上昇している。（サービス業）



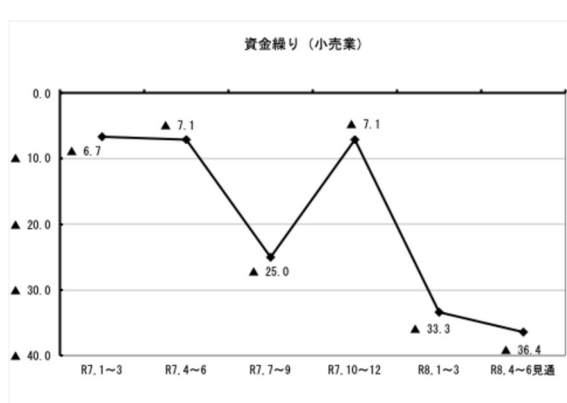
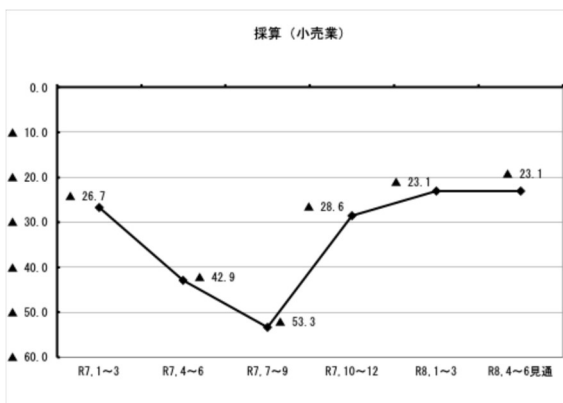
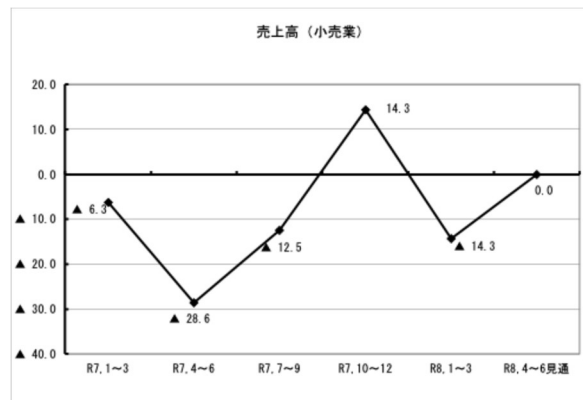
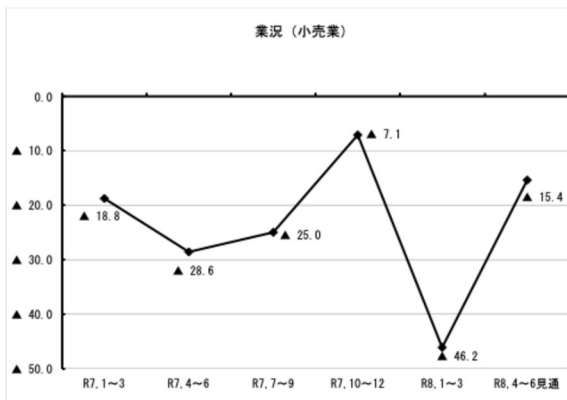
小売業

小売業の業況DIは▲46.2で前回調査に比べて39.1ポイント低下した。前回まで2四半期連続の上昇であったが、今回調査では大きく低下した。過去1年では最低の数値であり令和5年10月～12月期の▲53.8以来の水準である。4月～6月期見通しは▲15.4と回復の予想になっている。

売上高DIは▲14.3で前回調査に比べて28.6ポイント低下した。前回調査ではプラスの数値になったが、前回上昇した分がそのまま低下になった。4月～6月期見通しは0.0なので売上高も次回には回復期待がされている。

採算DIは▲23.1で前回調査より5.5ポイント上昇した。2四半期連続の上昇で下記1年では最も高い数値になった。4月～6月期見通しは▲23.1で横ばいを予想している。

資金繰りDIは▲33.3で前回調査より26.2ポイント低下した。過去1年で最低の数値である。さらに、4月～6月期見通しは▲36.4と低下が予想されており、小売業の資金繰りは厳しい状況が続くと予想されている。



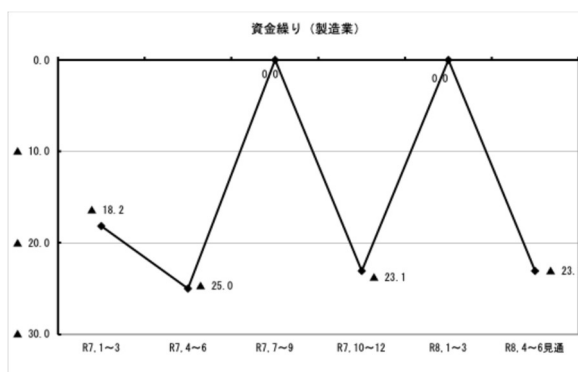
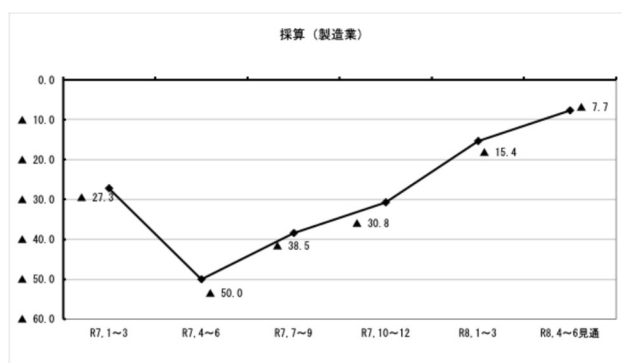
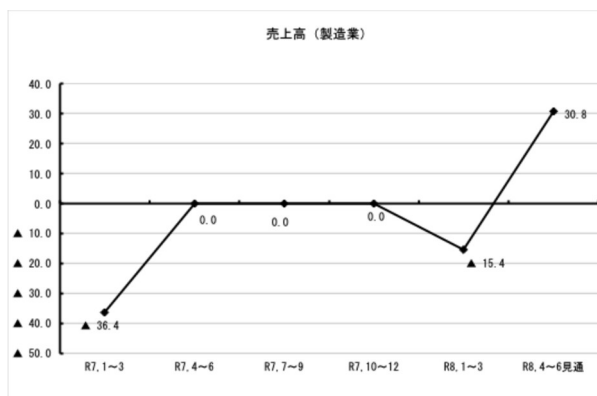
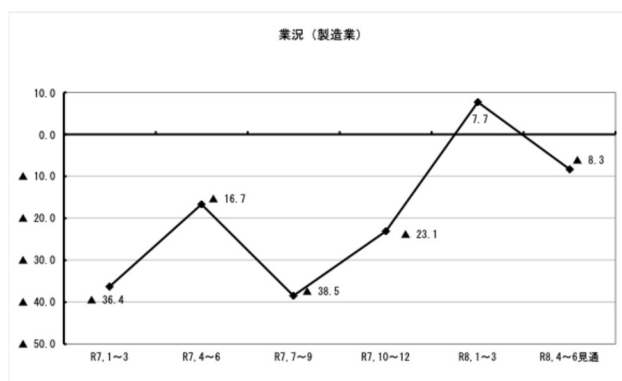
製造業

製造業の業況DIは7.7と前回調査の▲23.1から30.8ポイント上昇した。前回調査から上昇を始め、今回調査ではプラスの数値にまで回復した。プラスの数値になるのは令和6年4月～6月期の16.7以来である。しかし、4月～6月期見通しは▲8.3と低下を予想しており上昇のトレンドとは言い切れない。

売上高DIは▲15.4で前回調査と比べて15.4ポイント低下した。前回まで3四半期連続で0.0と安定した動きになっていたが、今回調査ではマイナスに落ち込んだ。一方で4月～6月期見通しは30.8と大きく上昇しており、今回の落ち込みはすぐに回復すると予想されている。

採算DIは▲15.4で前回調査に比べて15.4ポイント上昇した。採算は3四半期連続で上昇しており、回復の基調であると思われるが、マイナスの数値であるので安心できない。4月～6月期見通しも上昇して▲7.7で採算は上昇基調であることを印象づけている。

資金繰りDIは0.0で前回調査より23.1ポイント上昇した。過去1年を見ると0.0に戻しては下るを繰り返しており、安定しない動きになっている。4月～6月期見通しは▲23.1なので、不安定な動きは次の4半期も続きそうである。



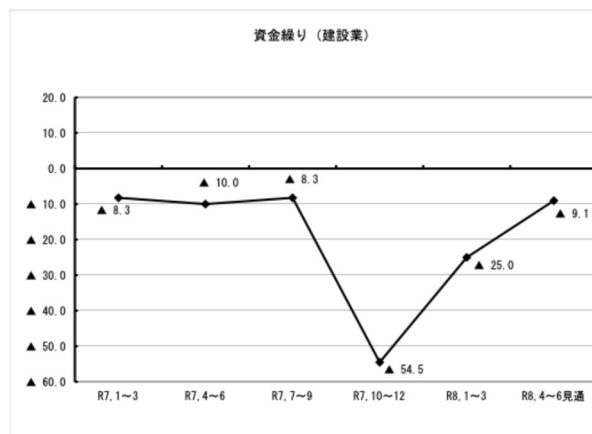
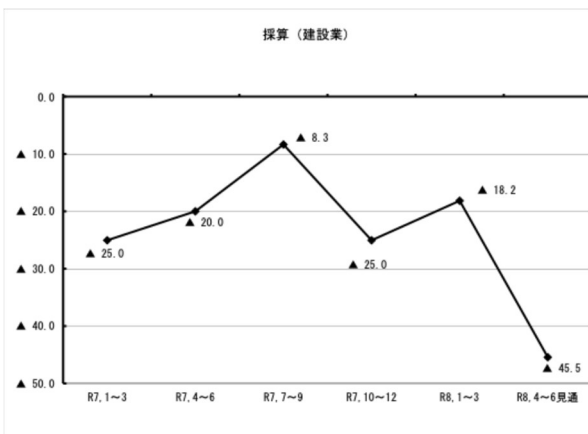
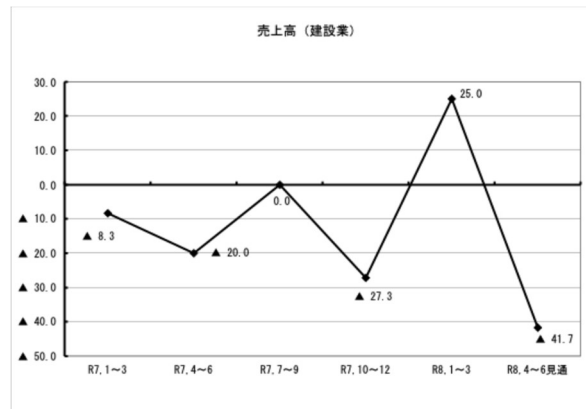
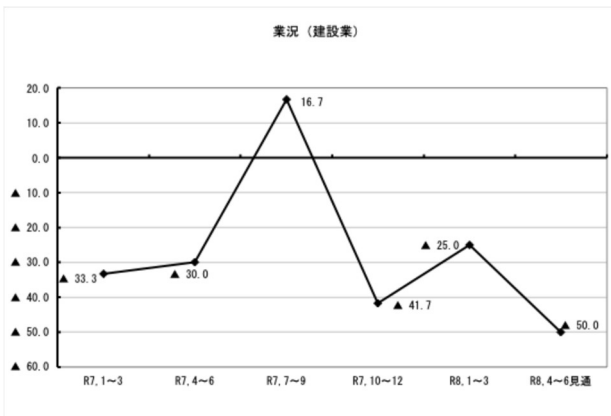
建設業

建設業の業況DIは▲25.0であり前回調査から16.7ポイント上昇した。前回調査時点での1月～3月期見通しは▲50.0であったので実際の動きは見通しとは逆に上昇できた。多田、4月～6月期の見通しは▲41.7と低下を予想しており、今回の上昇は業況の回復につながると考えられていないようである。

売上高DIは25.0で前回調査の▲27.3から52.3ポイント上昇した。令和6年10月～12月期以来のプラスの数値である。最近の建設業の数値は四半期ごとに上下しており、その流れは変わらないようで、4月～6月期見通しは▲45.5と今回上昇した以上の落ち込みが予想されている。

採算DIは▲18.2で前回調査の▲25.0から6.8ポイントの上昇である。業況、売上高と同じように今回調査では採算も数値が上昇した。採算面でも良い状況であると思われる。また、4月～6月期見通しも業況、売上高と同じように▲45.5と急落を予想しておりかなり厳しいようである。

資金繰りDIは▲25.0で前回調査に比べて29.5ポイント上昇した。資金繰りも他の3指標と同じように上昇した。前回調査の▲54.5は資金繰りとしては令和6年1月～3月期の▲40.0を超えるかなり低い数値である。今回の▲25.0は最悪の状態からは脱した印象を与える。4月～6月期見通しは▲9.1とさらに回復見通しである。



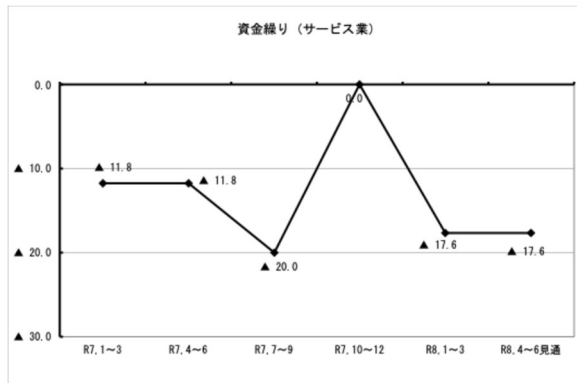
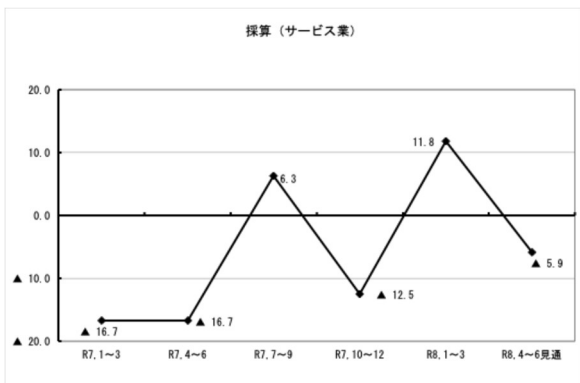
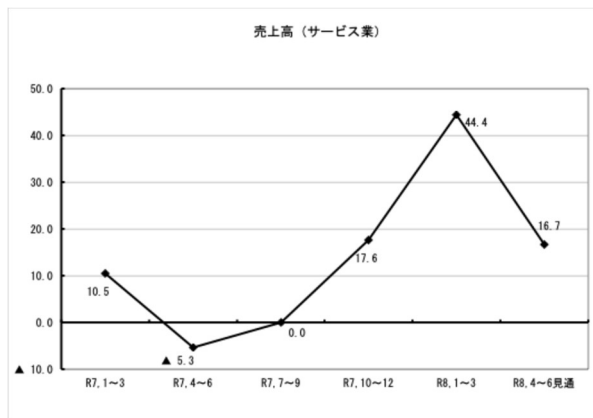
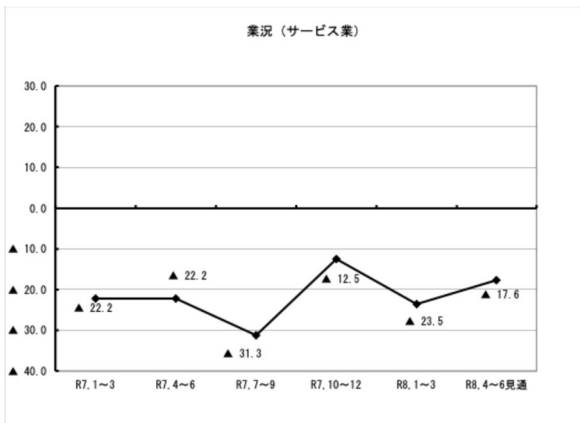
サービス業

サービス業の業況DIは▲23.5で前回調査より11.0ポイント低下した。サービス業の業況DIは過去1年を見ると▲20±10の範囲が続いており、明るさが見えてこない。4月～6月期見通しも▲17.6とその範囲に留まることから業況の回復は厳しそうである。

売上高DIは44.4で前回調査より26.8ポイント上昇した。3四半期連続の上昇である。令和4年10月～12月期に38.5となったサービス業の売上高だがそれを超える数値であり、業況とは裏腹の動きになっている。ただ、4月～6月期見通しは16.7とプラスの数値であるものの今回調査よりは下げており楽観はできない。

採算DIは11.8で前回調査と26.3ポイントの上昇であった。採算の前回調査時点での1月～3月期見通しは▲6.3であったので、予想に反して採算が良かった陽である。4月～6月期見通しは▲5.9となっている。

資金繰りDIは17.6で前回調査より17.6ポイント低下した。資金繰りのDIは前回調査が0.0となったIGは過去1年で▲10から▲20の間にあり、今回調査でもその範囲の数値になった。4月～6月期見通しも▲17.6で大きな改善等はなさそうである。



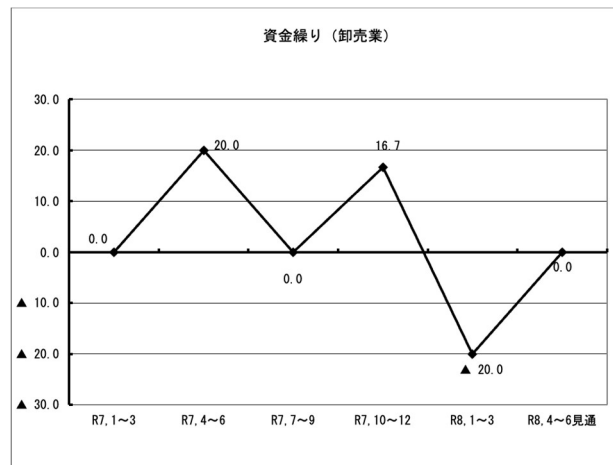
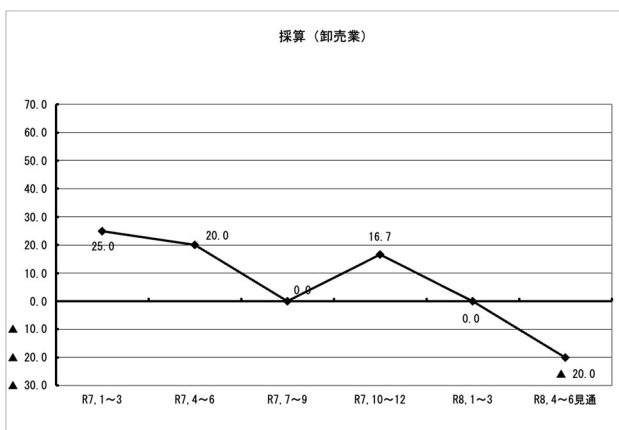
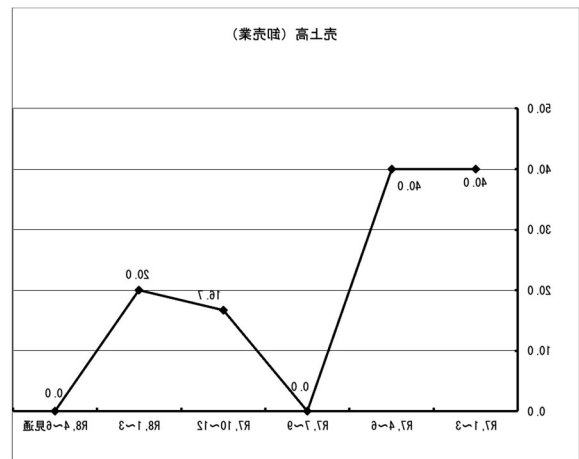
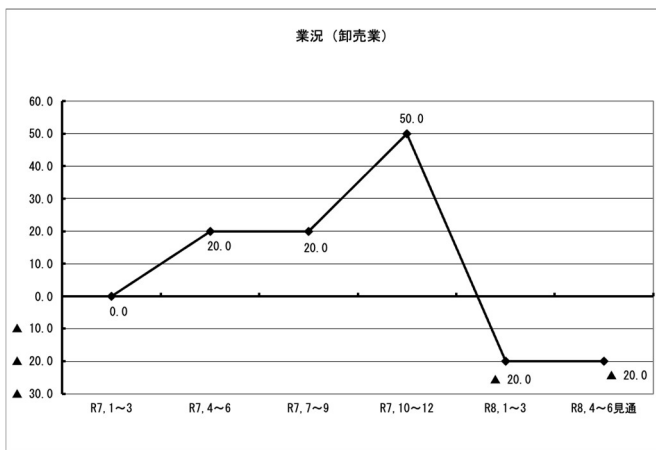
卸売業

卸売業の業況 DI は▲20.0 で前回調査より 70 ポイント低下した。前回調査までプラスの数値が続いた卸売業の業況 Di であるが今回調査では▲20.0 と前回調査より 70 ポイントと大きく低下した。4 月～6 月期の見通しも▲20.0 なので好調期から停滞期に転換した可能性がある。

売上高 DI は 20.0 で前回調査より 3.3 ポイント上昇した。2 四半期連続の上昇である。業況の大きな低下とは連動せず、売上高はわずかに上昇した。しかし、4 月～6 月期見通しは 0.0 と下げており、売上高の停滞も危惧される。

採算 DI は 0.0 で前回調査より 16.7 ポイント低下した。前回調査では 1 月～3 月期見通しを 16.7 としていたが実績は 0.0 で採算が上向きになる事はなかった。4 月～6 月期見通しはさらに低下して▲20.0 なので採算でも厳しい時期になっている可能性がある。

DI 資金繰り DI は▲20.0 で前回調査より 36.7 ポイント低下した。前回までは規則的に上下していた資金繰りであるが、今回は一気にマイナスまで落ち込むことになった。4 月～6 月期は 0.0 と回復を予想している。



DI 指数一覧表

	昨年の同期との比較					
	業況		売上高		採算（経常利益）	
	1～3 月期動向	4～6 月期見通し	1～3 月期動向	4～6 月期見通し	1～3 月期動向	4～6 月期見通し
全体	▲ 21.7	▲ 22.0	12.9	3.2	▲ 8.5	▲ 18.6
小売業	▲ 46.2	▲ 15.4	▲ 14.3	0.0	▲ 23.1	▲ 23.1
製造業	7.7	▲ 8.3	▲ 15.4	30.8	▲ 15.4	▲ 7.7
建設業	▲ 25.0	▲ 50.0	25.0	▲ 41.7	▲ 18.2	▲ 45.5
サービス業	▲ 23.5	▲ 17.6	44.4	16.7	11.8	▲ 5.9
卸売業	▲ 20.0	▲ 20.0	20.0	0.0	0.0	▲ 20.0

	該当期について				昨年の同期との比較	
	採算（経常利益）水準		取引の問い合わせ		従業員	
	1～3 月期動向	4～6 月期見通し	1～3 月期動向	4～6 月期見通し	1～3 月期動向	4～6 月期見通し
全体	13.8	12.1	▲ 16.7	▲ 9.3	8.5	7.1
小売業	0.0	8.3	▲ 20.0	▲ 10.0	0.0	0.0
製造業	30.8	30.8	25.0	8.3	15.4	25.0
建設業	33.3	8.3	▲ 41.7	▲ 25.0	0.0	▲ 27.3
サービス業	▲ 12.5	▲ 6.3	▲ 26.7	▲ 20.0	11.1	17.6
卸売業	40.0	40.0	▲ 20.0	0.0	20.0	20.0

	3 カ月前との比較					
	資金繰り		長期借入れ難易度		短期借入れ難易度	
	1～3 月期動向	4～6 月期見通し	1～3 月期動向	4～6 月期見通し	1～3 月期動向	4～6 月期見通し
全体	▲ 18.6	▲ 19.3	0.0	▲ 4.3	0.0	▲ 4.3
小売業	▲ 33.3	▲ 36.4	14.3	12.5	14.3	0.0
製造業	0.0	▲ 23.1	8.3	8.3	8.3	8.3
建設業	▲ 25.0	▲ 9.1	▲ 10.0	▲ 20.0	▲ 11.1	▲ 11.1
サービス業	▲ 17.6	▲ 17.6	▲ 6.7	▲ 14.3	▲ 7.1	▲ 14.3
卸売業	▲ 20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

過去からの動向

